

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一16:1~4 「聖徒たちへの献金」

[1-2]「さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたように、あなたがたにもこう命じます。私がそちらに行ってから献金を集めるようなことがないように、あなたがたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい」

「聖徒たち」とはキリストにあって救われ、聖なる神のものとされた人々という意味で、クリスチャンたちのこと。特にここでは3節を見るとわかるようにエルサレムのクリスチャンたちのこと。エルサレム教会で信仰に入った人々は非常に貧しかった。→使徒2:42~45、またステパノの殉教から起こった教会への迫害や大さきんの影響もあった。→使徒8:1、11:27~30 それでパウロはことあるごとに各地の教会に対してエルサレム教会のクリスチャンたちに対して援助をするように呼びかけていたのである。そして今彼はコリント教会へも使徒としての権威をもってそのことを命じている。しかし頭ごなしではなく細心の配慮をもって。①特定の人だけではなく「あなたがたおのおの」②一人一律いくらという強制ではなく「収入に応じて」③それをたくわえるのは「いつも週の初めの日(日曜日)」この日は主イエスの復活された日であり、教会はその日を礼拝の日としていた。④しかもそれは金額がわずかであっても人前で恥ずかしがることのないように、手もとにたくわえておいて、パウロが行ったときに献金というかたちに整えればよいという配慮。

[3]「私がそちらに行ったとき、あなたがたの承認を得た人々に手紙を持たせて派遣し、あなたがたの献金をエルサレムに届けさせましょう」

ここでパウロは自らは全く献金に触れないようにしている。コリント教会の人々は献金を集め、それをパウロの来る時まで手もとに保管しておき、彼が来たならば自分たちの選んだ人々に託して献金を送るという手はずである。そして彼らにはパウロからのあいさつの手紙を託す。このような十分な準備と心遣いによって献金はエルサレム教会へ正しく届けられることになるのである。

[4]「しかし、もし私も行くほうがよければ、彼らは、私といっしょに行くことになるでしょう」

ここにも細かい配慮がある。エルサレム教会にとって見ず知らずの人々だけを代表として送るよりも、やはりエルサレム教会にもなじみのある使徒パウロにも行ってもらったほうがよいと考えるならばそのようにしましょうとの提案である。このようなことば遣いにも彼の使徒としての権威が感じ取れる。使徒20章1節以下を読むと実際に彼が各教会の使節団を連れてエルサレムへ出発していったことがわかる。

このように、主にある各教会、兄弟姉妹たちが助け合い、援助し、献金をささげることがクリスチャン一人一人を生かし、恵みを与えてくださっている神への応答であり、特権であり、義務でもあることを私たちは知っておかなければならない。

→ I ヨハネ3:17~18